

2015年5月1日

2014年度の主な事業報告

社会福祉法人 ちいろば会

【法人年度目標】

- ・ちいろば会職員行動指針を職員間に浸透させる
- ・25年の活動を振り返る機会とする
- ・利用者の中長期的な生活をイメージし、現場に反映できる支援計画を作成する。

<ちいろば園> (生活介護事業) 定員 58 名、登録 57 名、1 日平均利用 52.6 名 前年比+1.2 名)

- ・利用者平均工賃 4,977 円/月、40 円/時
- ・今年度も年度途中の職員の退職があり、各部門の作業活動等に大きく影響し、作業活動の売上目標も達成できなかった。
- ・多機能型から生活介護事業のみに変更してから、2 年連続で利用者の出席率が向上している。
- ・現場での支援における気づき力を高めるため、支援における基本的知識を職員間で向上させることが急務

<ちいろば生活支援センター> (居宅介護、行動援護、移動支援、)

- ・年間延利用者数 居宅介護：481 名、移動支援：302 名、有償：326 名、日中一時：884 名
- ・居宅介護事業は予想以上に時間はかかったものの、すべての利用者に他事業所を紹介することができ、サービスを引き継ぐことができた。
- ・日中一時支援、移動支援についてもごく一部のサービスを除いて、事業休止の準備が整った。
- ・ちいろば園利用者の日中一時利用を生活介護の延長加算への変更を検討する必要がある。

<にぬふぁ星> (共同生活介護事業) 定員 14 名 現員 14 名 (1 名 8 月退去、1 名 1 月入居)

- ・ユイマールの利用者の状況把握が不十分で、夜間に無断外出していること等が判明し、夜間の状況把握の方法を再検討した。
- ・年度途中で退去者があり、利用者の配置替えとあらたに 1 名の入居があった。
- ・にぬふぁ星において、職員の不適切な支援が発覚し懲戒処分を行った。その結果、年度途中で 2 名の職員の退職につながった。
- ・職員の欠員補充ができず、週末のサービス利用を制限せざるを得ない状況が発生した。
- ・職員の急な退職等により基本的なサービス内容が引継ぎされていないため、再度、職員間でサービス内容やその意味等を確認する必要がある。

<ななつぼし> (市町村相談支援事業) 年間延相談件数：2,400 件 相談者数：577 件

障害程度区分認定調査：159 件

- ・西和 7 町障害者等支援協議会の事務局として議事録作成や案内文の作成を担当
- ・サービス等利用計画作成のための勉強会を西和 7 町自立支援協議会の主催で開始した。
- ・西和 7 町にサービス利用のガイドライン作成のための提案と資料提供を行った。

<ゆい> (児童発達支援、放課後デイサービス) 定員 1 日 10 名

児童発達支援：登録 30 名 月平均利用人数 5.3 名

放課後デイ：登録 14 名 月平均利用者数 4.6 名

月平均稼働率 99%

[児童発達支援]

- ・6月の移転を契機に活動内容を見直し、子どもたちの活動への参加度を高めることができた。
- ・週単位で活動内容を変更し、数か月単位で同じ内容を実施することで、子どもたちの変化を観察することができた。
- ・保護者交流会の内容を変更し、親子保育を実施し、殆どの保護者の参加があり、保護者と子どもたちのかかわりを知る機会となった。
- ・年度途中の職員退職が続いたが、サービス提供に大きな影響なく進めることができた。
- ・サービス利用のための計画作成にあたって、他事業所に訪問する機会があり連携にもつながった。

[放課後デイサービス]

- ・利用時間短く活動内容の組み立てが難しく、1月からは曜日単位で活動内容を決定した。

<行事報告>

・しろうと演芸会	2014年6月14日(土)	参加者数 68名
・ちいろばまつり	2014年9月13日(土)	参加者数 173名
・一泊旅行	2014年9月25(木)~26日(金)	利用者 67名
・合同バザー	2014年10月26日(日)	
・クリスマスコンサート	2014年12月13日(土)	参加者数 76名
・クリスマス礼拝、パーティー	2014年12月23日(火)	参加者数 72名

<研修会等>

- ・夏季法人研修 各事業別に企画実行
- ・冬季法人研修 ことばの定義について
- ・法人特別研修 ナチスドイツと「障害者」安楽死計画 長瀬 修氏
- ・春季法人研修 年間事業報告と職員交流会
- ・毎月1回法人職員勉強会実施(ゆいは別日開催)
- ・毎月1回リーダーズ研修

<その他>

- ・通常の退職手続きによらない職員の退職が続いた。
- ・グループホーム職員の欠員補充ができず、派遣会社より職員の派遣を決定した。
- ・採用担当者を配置して近畿圏内の大学等への求人活動を行ったが応募者は低調であった。
- ・25周年記念事業としてちいろばだより巻頭文集、活動報告書等過去の活動をまとめることができた。
- ・永年勤続者の表彰を行った。

<苦情申立、虐待報告と事故・ヒヤリ報告>

1. 苦情申し立てについて

- 今年度については、苦情申立てはなし
- 評価と今後の対応

職員の急な退職等、ご本人やご家族には様々な思いがあったことは予想されるが、厳しい現場の状況を察してか、苦情等として申し立てられることはなかった。ある意味において、苦情を申し立てるのも気の毒とご配慮いただいていることを組織として受けとめる必要がある。

2. 虐待報告

- 今年度は虐待としての報告すべき案件はなし
- 不適切な支援としてグループホーム「にぬふぁ星」においてK職員が利用者に卑猥な画像データを提供していたことや特定の女性職員と勤務中に無断でグループホーム内で話し込んでいたことが発覚し、当該職員と女性職員の退職につながった。

●評価と今後の対応

グループホームの勤務は夜間については、単独の勤務となるため、不適切な支援や勤務状況の把握が非常に困難であり、利用者からの聞き取りや不定期な管理者の見回り等により、状況把握に努める必要があり今後、管理者の巡回等を実施する。

3. 事故・ヒヤリ報告について

●ちいろば園

- ・利用者の通所途中のトラブル 7件
 - 通所バスの利用に関する職員の対応ミス 3件
 - グループホームへの送迎ミス 2件
 - 通所途中での事故、トラブル 2件
- ・利用者の一時的な所在不明 3件
- ・利用者の服薬忘れ 1件
- ・利用者支援におけるトラブル 2件

●にぬふぁ星

- ・利用者の投薬に関して 3件
- ・利用者の一時的な所在不明 1件

●ゆい

- ・設備不備に伴うひやり 1件

●評価と今後の対応

- ・新入職員への伝達が不十分なこと等によるケアレスミスが多く、確実な伝達方法を検討する。
- ・支援の様々な場面における職員の気づき力を高めるための研修等の検討が必要。